

平成20年1月

八杉晶子 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英
副主査 汐 田 剛 史
同 村 脇 義 和

主論文

Fhit, Mlh1, P53 and phenotypic expression in the early stage of colorectal neoplasms

(早期大腸腫瘍におけるFhit、 Mlh1、 P53および形質発現について)

(著者：八杉晶子、八島一夫、原明史、香田正晴、河口剛一郎、原田賢一、安達裕宣、
村脇義和)

平成20年 Oncology Reports 19巻 41頁～47頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、内視鏡的切除された早期大腸腫瘍標本を腺腫、腺腫内癌（CIA）、腺腫成分を含まない早期大腸癌（EPC）に分けて、癌関連蛋白（Fhit、Mlh1、Msh2、P53）および形質発現（HGM、MUC2、CD10）を検討した。その結果腺腫やCIAと異なって、FhitとMlh1蛋白発現異常はEPC群で高率に認められ、特に、Fhit発現異常は深部浸潤、脈管侵襲と関連していることを明らかにした。更にP53の異常発現はEPCとCIAで高率であり、この発現はCD10陽性と密接に関連していた。本研究は、大腸癌の発癌過程について新知見に富むものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。